

A.G. Spalding & Bros.



A.G. Spalding & Bros.



■ 1900年代初頭から半ばにかけて数々の名品を残してきた伝説のアスレチックブランド A.G.Spalding&bros (AG スポルディング&ブロス) が満を持して復活しました。(2017AW~)

当時としては最先端の技術を持ち、ベースボールをはじめとしたアメリカスポーツを根底から支え、アスレチックウェア界を牽引してきたパイオニアとして知られています。

時を経たいまでも、独自のディテールや作りの良さからヴィンテージ愛好家達から高い支持を得ています。

コレクターピースとも言える貴重なヴィンテージアーカイブを参考に、再構築されたスペシャルなコレクションを現代に復活させています。

■ PRICE

SWEAT ITEM :20,000~33,000

TEE SHIRTS:7,000~19,000

A.G. Spalding & Bros.

HISTORY

一度は聞いたことのある「スポルディング」という名前。野球のグローブやバット、体育館にあったバスケットボールで誰もが自然に慣れ親しんでいたブランドです。

A.G. Spalding & Brosの歴史は長く、設立はなんと1876年。

当時、メジャーリーグの投手だったアルバート・スポルディング氏が創設し、当初はメジャーリーグの公式球の生産をしていました。

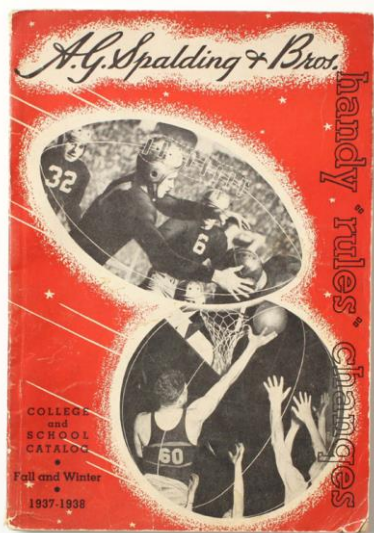
1920年代のアメリカは、自家用車やラジオ、洗濯機、冷蔵庫などの家電製品が普及し「黄金の20年代」と呼ばれました。この時代に、スウェットという衣類も誕生。

ヴィンテージスウェットは根強いファンが多いため、高値で取引されていますが、その中でも特に人気なのがA.G. Spalding & Bros製のものと言われています。1920年代のヴィンテージともなると、悠に30万円は超えてくる代物ばかり。

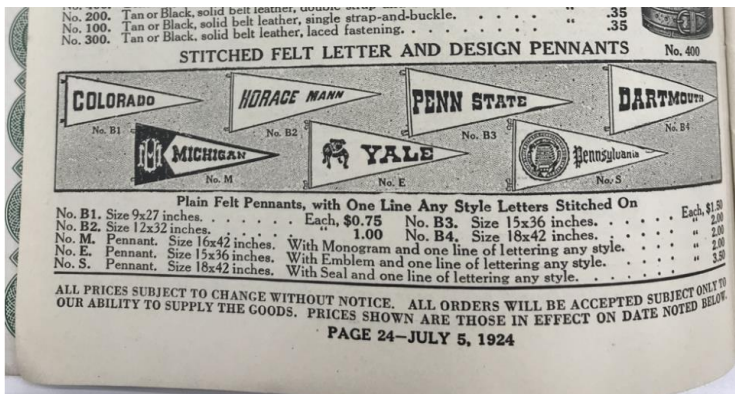
入手した当時のスポルディングのカタログを読み込んでいくと、当時の価格で\$7~12.5。リーバイスのデニムが\$4だったことを考えると、他にはないディテールで差別化を図っていたことが分かります。

また、アイビーリーグの大学名や個人名が胸に印刷されていることから、スウェットが誕生し始めた頃は、ゆとりのあるアイビーリーグの学生たちに支持されていたことが想像できます。

このスウェットを着ていると、100年前のアイビーリーグの学生になったような不思議な感覚に。あの頃に思いを馳せながら、時代を超えた一着に身を包む高揚感を味わってみてはいかがでしょうか。



1930年代のカタログ



カスタムオーダーをやっていた様です



当時の商品説明

A.G. Spalding & Bros.

■ PRODUCT①

象徴的なディテールを多数備えた歴史的傑作。
DOUBLEFACE SIDE-LINE PARKA (サイドラインパーカ)
PRICE: ¥33,000



もともとベンチウォーマージャケットとして開発されたサイドラインパーカ。ダブルフェイスでほどよく大きめのシルエットが特徴的。

ボダブルフェイス仕立て、クシンググローブポケットや首元のクロスネックなど、アイコン的なディテールをしっかりと再現。



(左) 1930年代のアーカイブからディテールを再現
(中) 象徴的なディテール、ボクシンググローブ型ハンドウォーマーポケット。
(右) フードの端部分はロック縫製。首元合わせ部分がクロスしている。

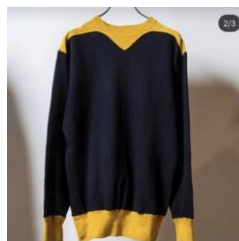
■ PRODUCT②

素材をアップデートしたアスレチックウェアのニュークラシック。
FOOT-BALL SHIRTS (フットボールシャツ)
PRICE: ¥20,000



当時はウール製ジャージー生地で作られていたフットボールシャツ。肌触りのいいコットン吊裏毛で再構築。

ショルダー部分の特徴的なリブの切り替え、脇下のガゼットなどのビンテージディテールはきっちり再現。



(左) 1920年代のウール素材のアーカイブからディテールを再現
(中) リブ編みで処理された首元と肩部分。スポーツウェアとしての機能。
(右) 脇の下も同様にリブ編みが施される。稼働性を加味したデザイン。

A.G. Spalding & Bros.

■ PRODUCT③

A.G.スポルディング&ブrosの隠れた名作を復刻。

TRAINING SHIRTS(トレーニングシャツ)

PRICE:20,000

1930年代頃にウールからコットンに移行した創世記のスエットを再現。
首元の前後にV字のガゼットが付く、いわゆる両V仕様。

裾にはV字に深く切り込みの入ったリブが装着。当時の伸縮性がない
リブに袖の出入れしやすさを加味したディテール。



(左) 1930年代のアーカイブからディテールを再現

(中) 内側がV字にカットされた袖元の長リブ。

(右) はめ込み式のV字型ガゼットを首元の表裏に配した両V仕様。
ヴィンテージスエットお馴染みのディテール。

A.G. Spalding & Bros.

■ TEXTILE

【吊編み機で有名な和歌山のジャージメーカーと素材を共同開発】

①吊裏毛起毛

編みたてながら起毛加工をしていることで、通常の吊裏毛よりも更にふっくらした風合いを引き出している。
春・秋・冬の3シーズンで展開

②ウール裏毛

アーカイブに存在した、表コットン裏ウールのスエット素材を復刻。
セーター並みの保温性。秋冬シーズンで展開

③ヘビー天竺

100年前のTシャツアーカイブを発掘、素材をリプロ。度詰め具合、スラブ感が特徴。

【フライスを当時のものを復刻】

袖口、裾共に縫製によるハギのない、丸編みのフライスを使用。



ふくらみ感のある吊裏毛起毛



丸編みのフライスを使用

A.G. Spalding & Bros.

GRAPHIC



アーカイブを収集し、復刻させたグラフィック群
カレッジスポーツチームのユニフォームだったことが想定される。

TAG&LABEL



(上)アーカイブをベースにデザインした現行のネーム下げ札
ネーム・下げ札
(下)アーカイブのネーム資料

